



柏木だより

令和7年3月19日(水)
八王子市立柏木小学校

教育目標： 自分を育て ともに育つ子
◎つたえあう（重点目標） ○わかりあう ○きたえあう
本校HP URL：<http://hachioji-school.ed.jp/kswge/>

3月特別号



令和6年度 八王子市立柏木小学校 学校経営報告

校長 前田 奈緒美

令和6年度の学校経営計画について、学校評価（児童・保護者・地域・自己評価）を基に、取組状況や次年度に向けた主な課題などをお知らせします。

1 学校経営の基本方針

「どの子ども幸せになるために生まれてきた ―すべての児童が笑顔になる学校づくり―」を目指し、一人ひとりの児童の可能性を最後まで信じぬき、可能性を伸ばしていく。「学校は何ができるのか」を常に問い続け、教師が児童の手本となって学び続ける。

教育目標 自分を育て、ともに育つ子 <自立と共生、自他の幸せ>
◎つたえあう（表現力、コミュニケーション力）
○わかりあう（学び合い、認め合う心、相手の気持ちを想像できる心）
○きたえあう（頭（知）心、体をバランスよく）

2 目指す学校像

（1）学びが保障され、どの子ども育つ学校 ―新学習指導要領に基づく学びの充実・確かな学力―

①ユニバーサルデザインの学校

特別支援教育の視点を重視し、全ての子供が安心して通うことのできる学校をつくる。

②一人一人が輝く学校

子供の思いや願いを第一義とし、成功体験を積み重ね、自分らしさを発揮できる学校をつくる。
夢や理想を追い続ける気持ちを大切にする学校をつくる。

③「心、体、頭」がバランスよく育つ学校

基本的な学習習慣と基礎学力を定着させる。学ぶ楽しさを味わわせ、体験を重視する。

（2）教師が育ち、どの子ども育つ学校

①「授業は教師の命」との認識に立って、授業の改善に間断なき努力をする教師

若手教員の育成を中心に、校内研究やOJTを充実し、ICTの活用をすすめる、学び続ける教師集団。

②一個の人間として、子供たちのよき手本となる生き方をする教師

失敗を恐れずに新たなことに勇気をもって挑戦し、責任を果たす教師集団。

児童・保護者・地域を大切に、互いに協力し合える教師集団。

教育公務員として、法を遵守する教師集団。（服務事故0）

③子供たちに、無償の愛を注ぐ教師

危機管理意識をもち、重大事故0をめざし、子供の命を守り抜く教師集団。

いじめの未然防止、早期発見、早期対応に本気で取り組む教師集団。

（3）家庭や地域との協働で、どの子ども育つ学校

①家庭との協働（【柏木保護者宣言】の浸透）

②地域との協働（【南大沢地域宣言】の制定）

（4）組織的な学校運営を行い、家庭や地域から信頼される開かれた学校

①地域運営学校として、学校運営協議会や関係諸機関と連携し、地域コミュニティの中心となる。

②南大沢中学校、南大沢小学校と連携し、9年間の小中一貫教育を行う。

③近隣の保育園・幼稚園・認定こども園との保幼小連携を行い、小1スタートカリキュラムに活かす。

④開かれた学校

3 中期経営目標、今年度の取組目標の検証

(1) 学びが保障され、どの子も育つ学校

A:90%以上達成 B:70%以上達成 C:50%以上達成 D:50%未満

中期経営目標(R6~8)	令和6年度取組目標と方策	達成度	検証
①ユニバーサルデザインの学校 ②一人一人が輝く学校 ③「心、体、頭」がバランスよく育つ学校	【確かな学力の育成】 ◎全教育活動を通して「話す」「聴く」活動を中心にした言語活動の充実 ◎「わかる」体験を通し、すすんで学ぶ意欲と態度の育成 ○ICT機器を活用し、基本的な知識（習得目標問題）の確実な定着と問題解決能力の向上 ○1人1台の学習用端末の有効な活用と個に応じた学習 ○全学級でミライシードを活用し、持ち帰りを実施 ○算数の習熟度別指導（3年生以上で習熟度別指導の実施） ◎生活科・総合的な学習の時間の充実 地域教材・地域人材を活用した授業を通し、自ら課題を見つけ主体的に解決する能力や態度を育成 ○年2回学力補充週間の基礎学力定着の取組 ○計算大会（学期に一回）と漢字検定（年一回）の実施 ○学習環境の整備（椅子や机の防音（テニスボール）・教室掲示物の工夫） ◎不登校児童の居場所づくり ○柏木スタンダード（学習規律）の徹底・ハンドサインの定着 ○6年生対象の放課後補習教室の実施（年間25回程度、国語・算数） 【豊かな心の育成】 ○人権教育・環境教育（SDGs：通年の牛乳パック・ペットボトルキャップ・うわばき回収）の充実 ◎簡単にあきらめない「強い心」の育成 道徳教育を中心とした「命を大切に子」の育成 ○読書活動・読書週間（電子図書の活用・朝読書・図書Vの充実・親子読書の推進） ◎一人一人が力を発揮できる場と時間の設定（特別活動の充実） たてわり班活動・音楽朝会や体育朝会・こどもまつり・柏木名人大会 ◎体験的活動の充実（本物との出会い） ・外部ティーチャーの活用 ・移動教室、社会科見学、遠足等の充実 ○あいさつ運動の推進 【健やかな体の育成】 ◎体力調査の結果を活かした体育科授業の充実 ○外遊びの奨励（ともあそび・たてわり班活動） ○体力向上月間（持久走・大縄集会）の実施 ○食育、健康安全教育の取組	B B B	【確かな学力】 ・地域学習を中心とした生活科・総合的な学習の時間の充実を図り、「話す」「聴く」活動を多く取り入れた。 ・算数少人数授業の展開、学力補充週間の取組、計算大会と漢字検定の実施を通して、基礎基本の定着を図ることができた。基礎学力に課題のある学年もある。 ・言語活動の充実については、自分の考えを言語化する活動に力を入れたが、語彙力の不足や表現が苦手な児童がいるなどの課題がある。 【豊かな心】 ・特別活動の中で、一人ひとりが力を発揮できる場を確保し、たてわり班活動等、異年齢の交流の場を多くもつことができた。 ・体験から学ぶ機会を多く設定することができた。 ・全校で取り組んだあいさつ運動で、自分からすすんであいさつができる児童が増えた。 ・思いやりの気持ちを育てる活動を行い、目に見える形での取り組みを行った。 【健やかな体】 ・体力テストの結果は全学年でほぼ全国平均であったが、平均より低かった長座体前屈等は、体育科の授業で継続的に取り組んでいく。 ・週1回のともあそび、年3回の体力向上の取組を実施した。休み時間や放課後も体を動かすことを楽しむ児童が多い。

A:90%以上達成 B:70%以上達成 C:50%以上達成 D:50%未満

(2) 教師が育ち、どの子も育つ学校

中期経営目標(R6~8)	令和6年度の取組目標と方策	達成度	検証
①「授業は教師の命」との認識に立って、授業の改善に中断なき努力をする教師	◎毎時間の見通しをもたせ、児童が達成感を味わえるわかりやすい授業と適正な評価 ○授業の積極的な公開 ○学力調査の結果の分析による授業改善 ◎校内研究の推進（生活科・総合的な学習の時間） 地域人材・地域教材を活かした計画的な学習を全校の取組とする	B	・生活科・総合的な学習の時間に対する教員の理解がすすみ、地域人材・地域教材を開発・活用することができた。 ・小教研や指導教諭の授業参観等、すすんで研修に参加しているが、校内への還元と教員の指導力向上が課題である。
②一個の人間として、子供たちのよき手本となる生き方をする教師	○若手教師を中心とした教員育成、OJTの充実 ◎外部の研修会への積極的な参加と校内への還元、専門性の向上 ◎一人ひとりの児童理解と丁寧な対応 ・子供の言い分を聴き、心に寄り添う・日常的な人権感覚 ・児童の発案を大切にする ・男女の不要な区別をしない ○一人一人を大切に、一日1回は全員と会話 ・朝の会、帰りの会の工夫（きら星紹介）・学級通信、HP紹介・日常的な言葉かけ ◎教師自らが、教育目標を体現し、自分の責任を果たしつつ新たなことに挑戦 ・教師同士、つたえあい、わかりあい、きたえあう ○教育公務員として、法を遵守する教師集団。（服務事故0） ◎働きやすい職場づくり・教員自身による働き方改革 ・職場環境の改善（パワーハラスメントの根絶・教職員アウトリーチ型相談事業の実施・校務改善と働き方改革） ○危機管理意識を高め、子供の命を守り抜く ◎いじめの早期発見（毎月アンケートの実施）、早期解決（「どちらも大切な本校の子とのスタンスを堅持」）	B	・授業改善や適正な評価を行うこと、若手教員への組織的なOJTを行うことが課題である。 ・「毎月アンケート」を実施し、全教職員で児童に関する情報等の共通理解を図ることができたが、さらに一人ひとりに寄り添った丁寧な対応を行っていくことが課題である。
③子供たちに、無償の愛を注ぐ教師		B	・全教職員が、働きやすい職場づくりをし、危機管理意識を高めることに取り組んでいくことが課題である。

A:90%以上達成 B:70%以上達成 C:50%以上達成 D:50%未満

(3) 家庭や地域との協働で、どの子も育つ学校

中期経営目標(R6~8)	令和6年度の取組目標と方策	達成度	検証
①家庭との協働	○「柏木保護者宣言」の浸透 ○基本的な生活習慣の確立。（「早寝、早起き、朝ご飯」等） ○聴き上手、時間厳守、あいさつの励行	B	・家庭との協働をすすめるためには、保護者への働きかけを行い、保護者の理解を得ることが必要である。
②地域との協働	○食育、健康教育の実践とともに家庭学習の充実。（3分間音読） ○事故、事件、災害から我が子を守る意識の醸成。 ○【南大沢地域宣言】の定着 ◎地域教材、地域人材を活用した特色ある教育活動への協力依頼。 ○地域・社会に貢献する（地域行事への参加推進）	B	・児童が大きな事故、事件、災害に巻き込まれることがなかった。 ・様々な場面で、地域の協力を得ることができ、教育活動に活かすことができた。 ・児童が地域防災訓練に関わつ

	○健全育成教育（あいさつ運動、クリーンデー、交通安全教育、防災・防犯教育） ○地域の大人が子供のよき手本となる。 ○学校がコミュニティの中核に ・「地域の部屋」の有効活用と充実・おはようコミュニケーションデーの充実、拡大 ○地域自主防災への協力		ていくことが課題である。 ・「地域の部屋」を地域の人の活動の場とすることができている。「おはようコミュニケーション」は地域に定着し、あいさつが習慣化してきている。
--	--	--	--

（４）組織的な学校運営と開かれた学校

A:90%以上達成 B:70%以上達成 C:50%以上達成 D:50%未満

中期経営目標(R6~8)	令和6年度の取組目標と方策	達成度	検証
①地域運営学校 ②小中一貫教育の推進 ③近隣大学等との連携 ④保幼小連携 ⑤開かれた学校	○学校運営協議会や関係諸機関と連携し、地域コミュニティの中心となる。 ・年間11回の学校運営協議会の開催、年1回の教職員への研修の実施 ・学校コーディネーターの活用 ◎南大沢中学校、南大沢小学校と連携し、9年間の小中一貫教育を行う。 ・児童・生徒の直接交流（南大沢小との合同授業・南大沢中との体験授業、行事の交流） ・中学校教員による6年生の算数授業指導 ・教員チームの連携（学力定着プロジェクトチームの設置・生活指導やいじめに関する情報共有） ○アウトリーチ事業、留学生との国際交流 ○由木あすなろ保育園・南多摩幼稚園等と保幼小連携を行い、スタートカリキュラムに活かす。 ○学校・学年だよりやHPの随時更新による情報の発信、日常的な学校公開（年3回土曜授業等）、学校評価を含む学校経営に関わる様々なデータや情報を活かした学校改善 ◎保護者私費負担の軽減。 ◎学年や分掌を核とした学校運営を行い、児童・保護者対応に全教職員で取り組む。	B	・学校運営協議会を中心として、学校が地域とつながる拠点となっていけるよう、新たな取組を模索していく。 ・南大沢中学校グループの校長が打ち合わせを継続することで、さらに合同授業等の新たな取組をすすめることができた。 ・保幼小連携をすすめた。今後「虹のかけはしプラン」を作成していく。 ・10月よりHome&Schoolによる情報発信を行った。4月より本格実施とする。 ・学校改善に活かすために、保護者の学校評価の回収率を上げる実施方法の工夫を行っていく。 ・私費会計の見直しを継続し、保護者の負担を軽減する取組を行った。